阪南町埋蔵文化財報告 Ⅳ

阪南町埋蔵文化財発掘調査概要

昭和62年３月

阪 南 町 教 育 委 員 会

はしがき

ここ近年、泉州とりわけ南部地域では、関西新空港の開港に伴い、開発が急速に進んでいます。阪南町内でも空港埋め立てのための土砂採取事業が実施されようとしています。教育委員会では、今年度も文化財保護の立場から、こうした開発に伴う緊急発掘調査を国庫補助事業として田山遺跡等で実施しました。

田山遺跡は、以前に行なわれた調査で中世期の漁労集落の存在が知られていますが、今年度の調査でも中世期の土器を検出しました。自然田遺跡は、昭和60年度末に新規に指定された遺跡で、その詳細な性格は、つかめていませんが、石鏃等の石器をはじめとして中世～近世期の土器が検出されており、縄文時代から近世期にかけての遺跡の存在が推定されています。

これらの埋蔵文化財というものは、ひとつひとつでは、それ自体は何も語ってはくれませんが、地道に調査・研究がなされれば、私たちの先人の生活(くらし)を雄弁に語ってくれるものになります。

ここに今年度の調査成果を発表します。少しでも多くの人々に活用され、私たちの先人のくらしを知る手がかりにでもなれば幸いです。

最後に調査に御協力を下さった土地所有者等関係各位に深く感謝するとともに、今後も文化財の保護や保存・活用に御協力をお願いする次第です。

昭和62年3月

阪南町教育委員会

教育長　庄　司　菊太郎

例　　言

1. 本書は、阪南町教育委員会が昭和61年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当実施した、阪南町所在埋蔵文化財包蔵地の発掘調査概要報告書である。

2. 調査は、阪南町教育委員会社会教育課三好義三を担当者とし、昭和61年4月1日に着手し、昭和62年3月31日に終了した。

3. 調査にあたっては、清水恭子、田中　亘、松下庄一、石原圭昭、山中庸祐、東　公美、森　一恵諸氏の援助をうけた他、大阪府教育委員会石神　怡・森屋直樹、泉佐野市教育委員会鈴木陽一諸氏からは懇切な指導を賜った。また、調査地の土地所有者等関係各位から協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。

4. 本書の編集は三好が行い、執筆は出土遺物（石器）を清水が、その他は三好が行った。

目　　次

1　章　　調査に至る経過 …… 1

2　章　　歴史的環境 …… 3

3　章　　調査成果 …… 5

　1　節　　田山遺跡 …… 5

　2　節　　自然田遺跡 …… 13

　3　節　　神光寺（蓮池）遺跡 …… 19

4章　　まとめ …… 23

　遺物観察表 …… 24

挿　図　目　次

第 1 図	阪南町遺跡分布図	4
第 2 図	田山遺跡調査区位置図	5
第 3 図	田山遺跡　86－1区　トレンチ位置図	6
第 4 図	田山遺跡　86－1区　第1トレンチ平面図・断面図	6
第 5 図	田山遺跡　86－1区　第2・3トレンチ平面図・断面図	6
第 6 図	田山遺跡　86－1区　出土遺物	6
第 7 図	田山遺跡　86－2区　トレンチ位置図	7
第 8 図	田山遺跡　86－2区　断 面 図	8
第 9 図	田山遺跡　86－2区　出土遺物	8
第 10 図	田山遺跡　86－4区　トレンチ位置図	9
第 11 図	田山遺跡　86－4区　トレンチ断面図	9
第 12 図	田山遺跡　86－4区　出土遺物	9
第 13 図	田山遺跡　86－5区　調査区設定図	10
第 14 図	田山遺跡　86－5区　平面図・断面図	11
第 15 図	田山遺跡　86－5区　出土遺物	12
第 16 図	自然田遺跡調査区位置図	13
第 17 図	自然田遺跡試掘調査区出土遺物	14
第 18 図	自然田遺跡試掘調査区出土石器	15
第 19 図	自然田遺跡　86－1区　トレンチ位置図	17
第 20 図	自然田遺跡　86－1区　平面図・断面図	18
第 21 図	神光寺（蓮池）遺跡調査区位置図	19
第 22 図	神光寺（蓮池）遺跡　86－1区　断 面 図	19
第 23 図	神光寺（蓮池）遺跡　86－1区　トレンチ位置図	20
第 24 図	神光寺（蓮池）遺跡　86－1区　出土石器	20
第 25 図	神光寺（蓮池）遺跡　86－1区　出土遺物	21

図　版　目　次

図 版 1　田山遺跡　86－1区　全景・遺構
図 版 2　田山遺跡　86－2区・86－4区　全　景
図 版 3　田山遺跡　86－5区　全景・遺構
図 版 4　自然田遺跡　86－1区　全景・遺構
図 版 5　自然田遺跡　86－1区・神光寺（蓮池）遺跡　86－1区　全　景
図 版 6　田山遺跡　出土遺物
図 版 7　自然田遺跡　出土遺物
図 版 8　神光寺（蓮池）遺跡　出土遺物

1章　調査に至る経過

阪南町は大阪府南部に位置する。関西新空港の建設が隣接する泉南市、田尻町、泉佐野市沖の大阪湾上ですすめられており、空港埋め立てに用いられる土砂採集事業が阪南町で行われようとしている。この空港建設に伴い、近年阪南町域での開発も急激に増加している。阪南町では、こうした開発行為に伴う埋蔵文化財発掘調査を昭和６０年度にひき続き、国庫補助事業として行い埋蔵文化財の保護や保存・活用をはかることとなった。

今年度の調査は、別表の通りであるが、そのほとんどは、個人住宅建設等の比較的小規模なものである。しかし、昨年度と比較して届出件数は倍増しており、今後も急増するものと思われる。

遺跡名	地区	調査地	申請者	土木工事の目的	面積(㎡)
田山遺跡	※86−1	阪南町箱作2017の1番地	飯田　守	個人住宅	520.63
〃	※86−2	〃　箱作2344の3番地	南府建設株式会社 麻生川　幸志	住宅事務所	298.92
〃	86−3	〃　箱作2027の1番地先	飯田　守	水道管	12
〃	※86−4	〃　箱作1995の3番地	泉営工株式会社 増田豊次	倉庫	298
〃	※86−5	〃　箱作1769の1〜1830の6番地	町長	雨水排水路新設	420
〃	86−6	〃　箱作1782番地先	町長	河川(水路)改修	54
神光寺(蓮池)遺跡	※86−1	〃　石田198の1〜199の1番地先	町長	河川改修	64
〃	86−2	〃　石田493の6番地	泉州マイホーム株式会社 元辻正志	住宅	118.79
〃	86−3	〃　石田268の1〜267番地先	町長	河川改修	12.6
〃	86−4	〃　石田283の1番地	福田佳世子	水道	1.2

遺跡名	地区	調査地	申請者	土木工事の目的	面積(㎡)
高田山古墳群	86−1	阪南町桑畑599の21番地	大阪ガス株式会社南部導管事務所所長 鷺島敏憲	ガス管	1.0
〃	86−2	〃 自然田1913の29番地	中嶋達明	共同住宅	320.03
〃	86−3	〃 自然田169の28〜268の4番地先	町長	道路補修	43.7
〃	86−4	〃 自然田273の4番地	平野雅彦	個人住宅	213.32
〃	86−5	〃 自然田1913の29番地	中嶋達明	水道	1.5
貝掛遺跡	86−1	〃 貝掛629の1〜630の1番地	大阪ダイハツ販売株式会社 三宮清一	造成	735.9
〃	86−2	〃 貝掛1764番地先	町長	河川改修（釈迦坊川）	70
〃	86−3	〃 貝掛1246番地先	町長	〃（久掘川）	75
〃	86−4	〃 貝掛339番地先	町長	〃（花折川）	80
金剛寺遺跡	86−1	〃 南海団地西3の19	川西秀男	水道	3.7
玉田山遺跡	86−1	〃 自然田1918番地	町長	遊具設置	3
自然田遺跡	※試掘	〃 自然田758番地他	大正不動産株式会社 阿形邦三	宅地造成	889.4
〃	※86−1	〃 自然田771番地	芝野喜久夫	個人住宅	608
〃	86−2	〃 自然田768の5番地	古野与八郎	店舗	724.72
〃	86−3	〃 自然田758の12番地	大正不動産株式会社 阿形邦三	住宅	120.45
〃	86−4	〃 自然田758の5番地	〃	〃	121.37

※本書において報告をおこなった調査地区（7件）

2章　歴史的環境

現在、阪南町域には三十数ヶ所の旧石器時代から近世までの埋蔵文化財包蔵地が周知されている。

旧石器時代の遺跡としては、神光寺（蓮池）遺跡から有舌尖頭器が出土している。

縄文時代では、玉田山遺跡、田山遺跡等から石鏃など縄文文化に伴う石器が検出されているが、縄文土器の出土例はない。今後発掘調査がこれらの遺跡内でおこなわれれば検出される可能性はあろう。

弥生時代には、神光寺（蓮池）遺跡で中期の方形周溝墓の存在が知られている他、田山遺跡では、後期の甕片が出土している。とりわけ神光寺（蓮池）遺跡では、この方形周溝墓に伴う集落等の存在が十分に推察できよう。

古墳時代には、中期に箱作古墳が、後期に玉田山古墳群・塚谷古墳群が築造されているが、集落跡等は未検出であり、これからの調査が期待される。

奈良時代から平安時代にかけてでは、神光寺（蓮池）遺跡において、平安時代後期頃の瓦が出土し、当時より寺院が存在していたようである。その他、田山遺跡でも井戸が検出されている。

中世期も神光寺（蓮池）遺跡で瓦が検出されている。また田山遺跡では、蛸壺や製塩土器の出土が報告されており、漁労集落としての様相を呈していよう。

近世期としては、神光寺（蓮池）遺跡から瓦が検出されている。この他、箱作ミノバ石切場、同細谷石切場など、この地方特有の和泉砂岩の石切り場跡が確認されている。

以上が町内の遺跡の概要であるが、神光寺（蓮池）遺跡・田山遺跡以外では調査があまり行われておらず、実体がまだ把握されていないのが現状である。今後、調査が行なわれれば、他の遺跡に関しても徐々にその実体を明確にすることができよう。

1　皿田池古墳
2　平野寺（長楽寺）跡
3　高田山古墳群
4　雨山遺跡
5　玉田山古墳群
6　玉田山遺跡
7　寺田山遺跡
8　岩崎山遺跡
9　石田山遺跡
11　塚谷第１号墳
12　塚谷第２号墳
13　塚谷第３号墳
14　塚谷第４号墳
15　塚谷第５号墳
16　箱作古墳
17　三昧谷遺跡
18　三升五合山遺跡
19　貝掛遺跡
20　神光寺（蓮池）遺跡
22　田山遺跡
24　箱作今池遺跡
25　茶屋遺跡
26　四郎太郎遺跡
27　稲丸遺跡
28　井山城跡
29　箱作ミノバ石切場跡
30　師道谷遺跡
31　箱作細谷石切場跡
32　玉田山須恵器窯跡
33　（府規）史　玉田山上方下円墳
34　井関遺跡
35　自然田遺跡
36　箱作仏屋谷石切場跡
37　飯ノ峯畑遺跡
38　金剛寺遺跡

第１図　阪南町内遺跡分布図

3章　調　査　成　果

1節　田山遺跡

86－1区

1. 位　置（第2・3図）

本調査区は、個人住宅建設に先立つ事前調査である。田山遺跡のほぼ中央部に位置し、かつて（財）大阪文化財センターが道路建設に先立ち調査を行なった地区に隣接している。この文化財センターによる調査(註1)では、漁労集落・石工集団の存在を裏づける遺物が出土している。

調査は、対象地に2m×2mのトレンチを3ケ所、1.4m×1m、2m×1.4mのトレンチを各1ケ所設定し、人力で掘削をおこなった。

2. 層　序（第4・5図）

基本的な層序は、上層より第1層耕作土、第2層淡褐色土、第3層灰色砂質土、第4層明灰色砂質土、第5層淡灰褐色シルト、第6層黄褐色粘土(地山)である。第3～5層から土師器片、須恵器片、蛸壺片、陶磁器片、瓦器片等が出土した。

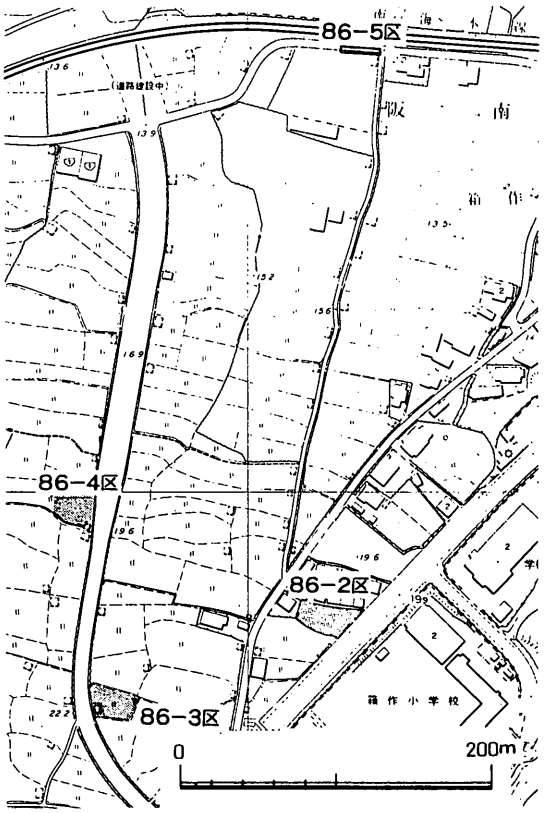
3. 遺　構（第4・5図）

調査対象区北側に設定した2m×1.4mの第1トレンチ、1.4m×1mの第2トレンチでそれぞれ土坑と溝を検出した。第3～5トレンチでは、遺構は検出されなかった。

ＳＫ－０１

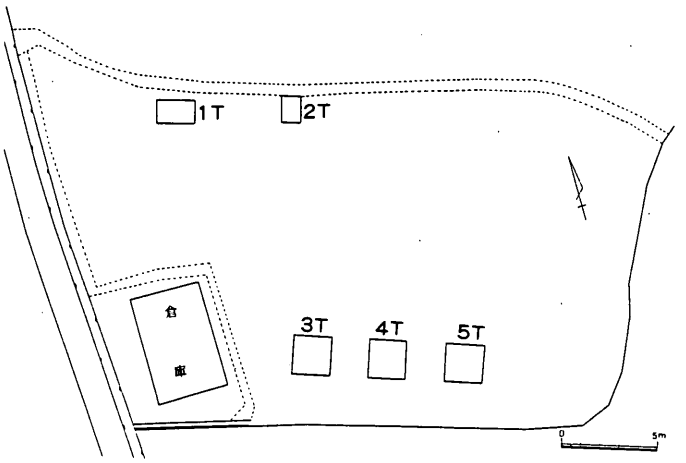
径約0.8m、深さ約0.2mの土坑を検出した。埋土は暗灰色粘質土、灰色粘質土である。遺物は検出されなかった。

ＳＤ－０１



第2図　田山遺跡調査区位置図

幅１ｍ以上、深さ約０．５ｍの溝で、遺物は検出されなかった。

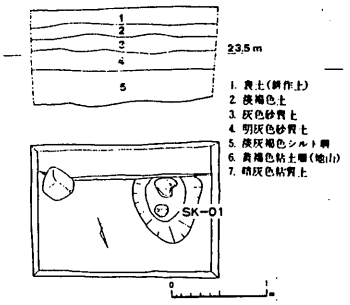


第３図　田山遺跡　86－１区　トレンチ位置図

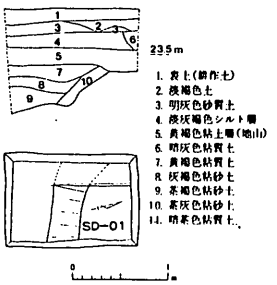
4. 遺　物

（第６図・遺物観察表１）

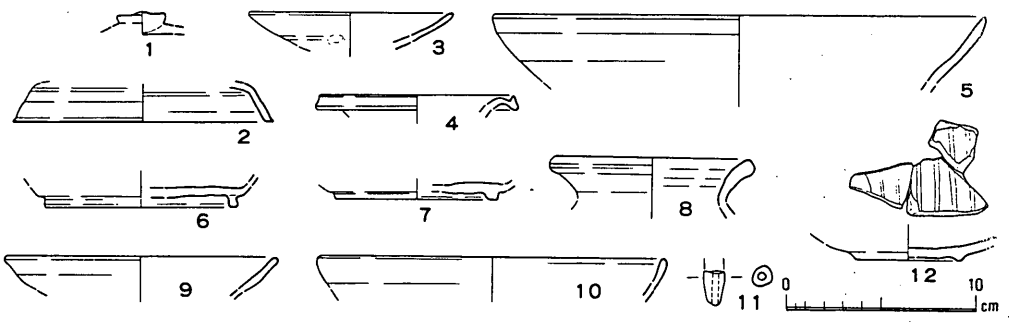
１は須恵器の蓋である。２は同じく蓋であるが、壺のものと思われる。内外面にヨコナデが施されている。３は須恵器坏片で内外面にヨコナデが施されている。４は須恵器の長頸壺の口縁部と思われる。口唇部に釉がみられる。５は須恵質の鉢で口縁部外面に釉がみられる。６・７は須恵器の高台部である。８は土師質の壺の破片で、製塩土器の口縁部であろう。９は土師質の坏で、口縁部はヨコナデ調整がみられる。１０・１２は瓦器椀で、１２の内面には暗文が施されている。１１は土師質の管状土錘である。



第４図 田山遺跡 86－１区
１トレンチ平面図・断面図



第５図 田山遺跡 86－１区
２・３トレンチ平面図・断面図

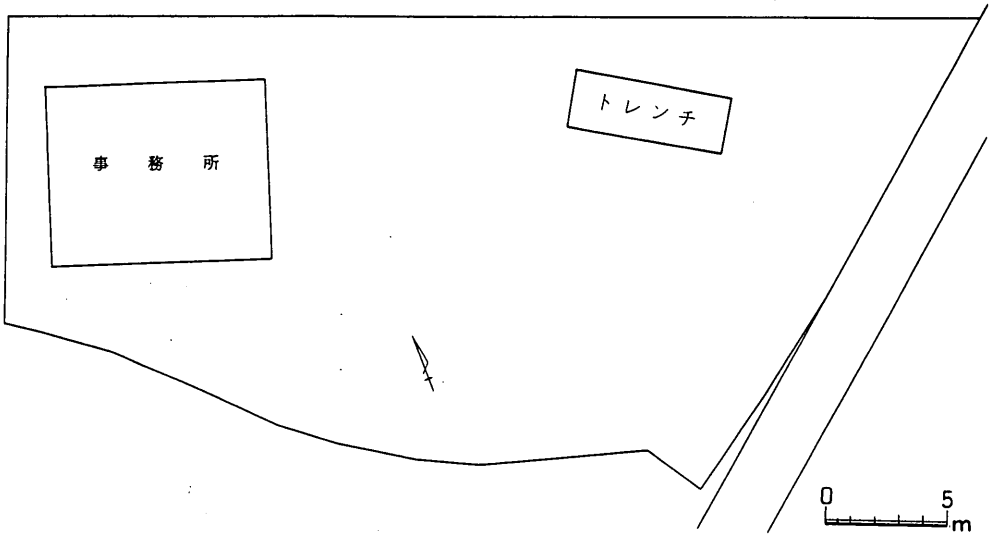


第６図　田山遺跡　86－１区　出土遺物

８６－２区

1. 位置および調査の概要（第２・７図）

本調査区は、事務所建設に先立つ事前調査である。田山遺跡の南東端に位置



第7図　田山遺跡　86－2区　トレンチ位置図

する。申請地が以前に盛土されており、建物の基礎部分が遺構面まで達しないことから、建物前の駐車場部分に6.5 m × 2.5 mのトレンチを設定し、掘削をおこなった。

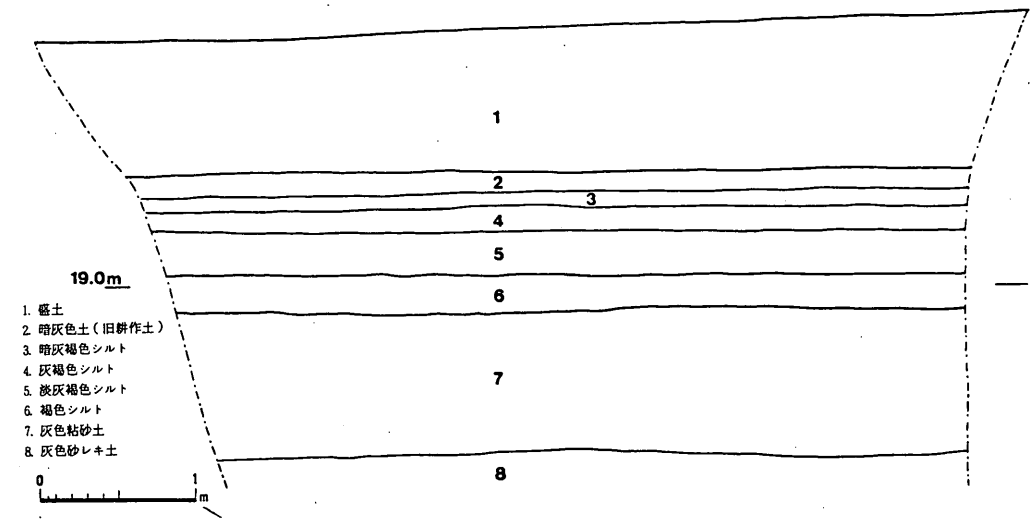
人為的な遺構は検出されなかったが、トレンチ全面に流路を検出した。立ち上がりをトレンチ内で確認できなかったことから、かなり大規模な流路と思われる。また、土砂の堆積状態からその流れは、トレンチの長軸方向とほぼ一致するものと思われる。

2. 層　序（第8図）

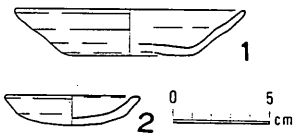
盛土以下の基本的な層序は、第2層暗灰色土（耕作土）、第3層暗灰褐色シルト、第4層灰褐色シルト、第5層淡灰褐色シルト、第6層褐色シルト層であり、以下の第7・8層は、砂粒子や礫を多量に含んでおり、流路の埋土と思われる。第3～6層中から、土師器片、須恵器片、瓦器片等が十数点検出された。

3. 遺　物（第9図・遺物観察表1）

1は土師質の坏である。体部にナデ調整がみられる。2は瓦器の小皿で、体部から口縁部にかけてヨコナデ調整が施されている。



第８図　田山遺跡　８６－２区　断面図



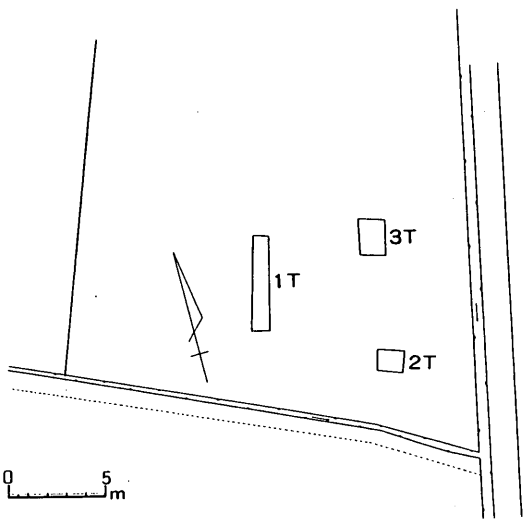
第9図 田山遺跡
86−2区 出土遺物

８６－４区

1.　位置および調査の概要（第２・１０図）

本調査は、倉庫建設に伴う調査である。本調査区は、田山遺跡のほぼ中央部に位置し、８６－１区同様に（財）大阪文化財センターによって調査が実施された道路に隣接している。

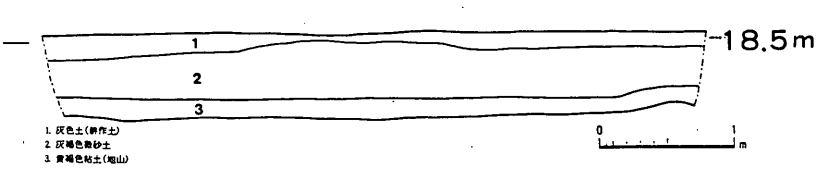
調査は、申請地のほぼ中央に１ｍ×５ｍ、２ｍ×1.５ｍ、１ｍ×1.５ｍのトレンチを設定し、人力で掘削をおこなった。遺構は検出されなかった。



第10図 田山遺跡 86−4区 トレンチ位置図

2. 層　序（第11図）

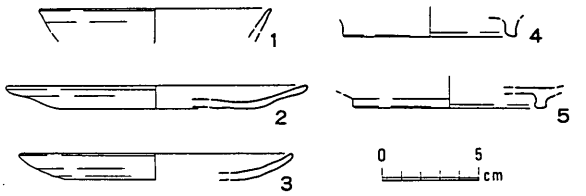
基本的な層序は、上層より第1層灰色土（耕作土）、第2層灰褐色微砂土、第3層黄褐色粘土（地山）であった。各トレンチの第2層から須恵器片、土師器片等が検出された。



第11図　田山遺跡　86－4区　トレンチ断面図

3. 遺物（第12図・遺物観察表1）

1・2は瓦器の椀、皿で、2の体部には指圧痕がみられる。3は土師器の皿で、4は土師質の高台部である。この高台部は削り出しによるものであろう。5は須恵器の高台部であり、高台は貼り付けによる。



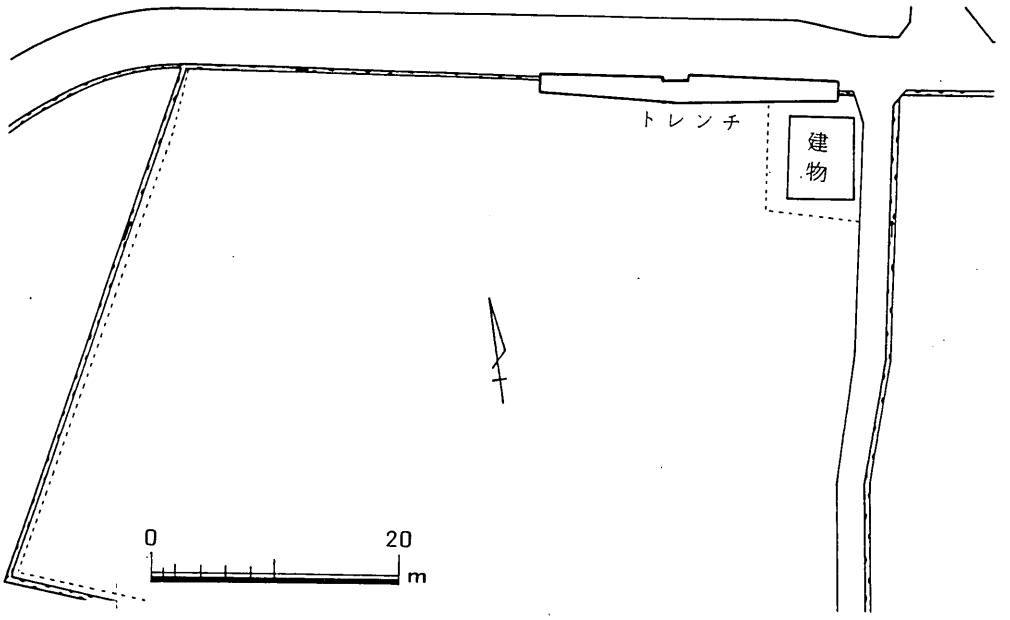
第12図　田山遺跡　86－4区　出土遺物

86－5区

1. 位　置（第13図）

本調査は、阪南町によりすすめられている排水路付設工事に先立つ調査である。阪南町は、田山遺跡の南方にとおる通称水道道（すいどうみち）に1.2m×1.2mの雨水排水路溝（ボックスカルバート）を延長170mにわたり付設する計画であった。このため、水道管の位置の確認と試掘調査を兼ねて、申請地を数ケ所掘削をおこなった。この試掘調査の結果、申請地のほとんどは、以前の水道管付設工事、道路工事等により、包含層が存在していなかった。申請地の西端部約25m間のみ若干包含層の残存が確認された。このため、この約25mの間で本調査を実施することとした。

本調査区は、田山遺跡の北東端に位置する。以前の道路、水道管工事等により、盛土されている部分（約0.7～0.8m）をバックホウで除去したのち、第1、2層（約0.3m）を人力で掘削した。



第13図　田山遺跡　86－5区　調査区設定図

2. 層　序（第14図）

以前の工事でうけた掘削・盛土以下の基本的な層序は、上層より第1層灰黄色微砂土、第2層暗灰色微砂土、第3層青灰黄色粘土（地山）であった。第2層より土師質土器片、須恵器片等が検出された。

3. 遺　構（第14図）

調査区東方において地山面で溝、土坑を検出した。

ＳＫ－０１

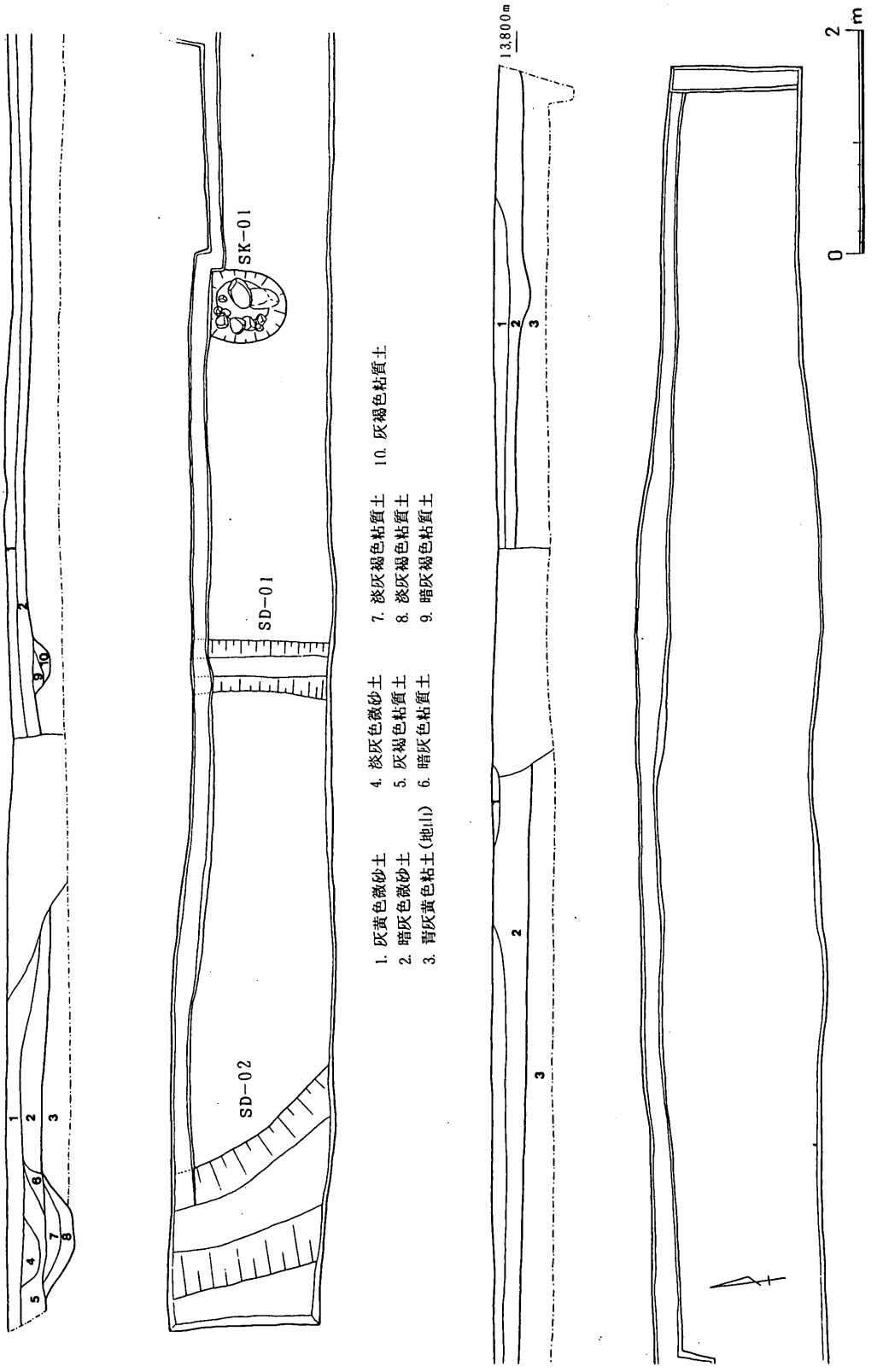
径約0.6～0.8ｍ、深さ約0.15ｍの土坑を検出した。埋土は第2層暗灰色微砂土であった。埋土中から須恵器甕片、土師質土器片が出土した。

ＳＤ－０１

幅約0.5ｍ、深さ約0.15ｍを呈する。埋土は暗灰褐色土、灰褐色粘質土であり、土師質土器（蛸壺）片が検出された。

ＳＤ－０２

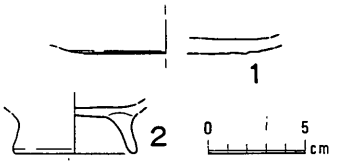
幅約1.2～1.8ｍ、深さ約0.25ｍの溝。埋土は淡灰褐色粘質土等であるが、遺物は検出されなかった。



第14図　田山遺跡　86－5区　平面図・断面図

4. 遺　物（第１５図・遺物観察表１）

１は須恵器の坏と思われる。外部に回転ヘラケズリ、ヨコナデ調整がみられる。２は土師質土器の高台部で、器種は椀であろう。高台は貼り付けで、高台内に炭素の吸着がみられる。先述したＳＫ－０１より出土した。



第15図　田山遺跡
86－5区 出土遺物

5. 小　結

今回の調査では、第２層とした暗灰色微砂土は中世期の土器を含み、中世期の耕作土と考えられる。また、この第２層の下にすぐ地山－第３層青灰黄色粘土がみられた。これは一昨年度に行われた調査とほぼ同じ様相を示している。その報告(註2)によると、中世の時期に地下げを伴う耕地の造成が行なわれたと推定されるとしており、その調査地から東方へ約１５０m離れた本調査区においても検出されたことから、付近一帯が中世期にはすでに耕作地として利用されていたようである。また、本調査区東端部においても第２層が明瞭に存在したことから、田山遺跡の範囲が東方に延びる可能性があるといえよう。本調査区の付近一帯が中世期には筥造荘と呼ばれる京都上賀茂神社領であった記録が残されており、その頃から存在していたであろうとされる加茂神社が東方に位置する。この加茂神社より北東部に現在は集落が集中している。これらのことから、調査区一帯は中世期に大規模な開発がおこなわれ、上賀茂神社領筥造荘として経営されていたようである。しかし、一方では漁労関係遺物が大量に検出されており、農耕、漁労といった二面性をもった集落であったようである。

2節　自然田遺跡

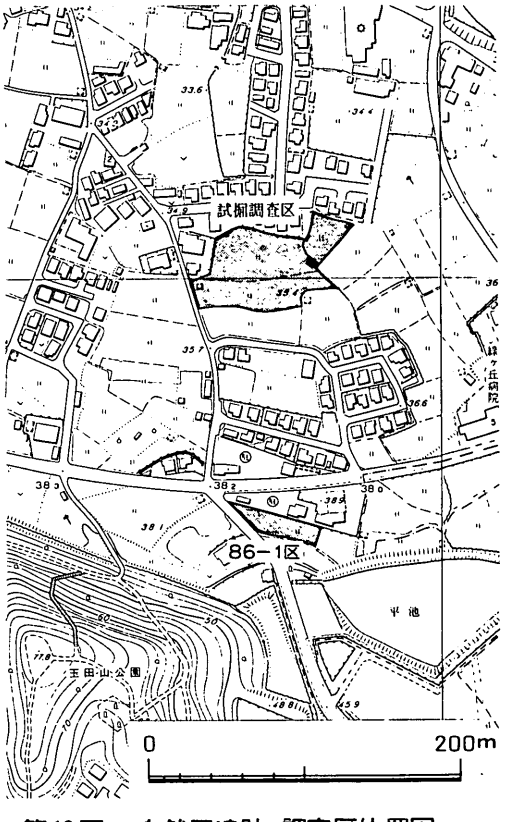
試掘調査区

1.　調査に至る経過および位置（第16図）

本調査は、大正不動産株式会社が、本町自然田758番地先の宅地造成工事を行うにあたり、提出した埋蔵文化財の存否の確認調査依頼に基づく。調査は、大阪府教育委員会より技師の派遣をうけて実施した。

申請地は、従来より縄文時代の遺跡として知られる玉田山遺跡、古墳時代後期の玉田山古墳群が存在する玉田山の北方約300mの地点に位置する。北西方向には菟砥川が流れ自然田の集落を貫通している。

申請地は、宅地造成を工事の目的とするが、トレンチとしてその宅地内道路部分約890㎡の掘削を行なった。まず盛土をバックホウで除去した後、以下の土層を人力で掘削した。



第16図　自然田遺跡 調査区位置図

2.　基本的層序および調査の概要

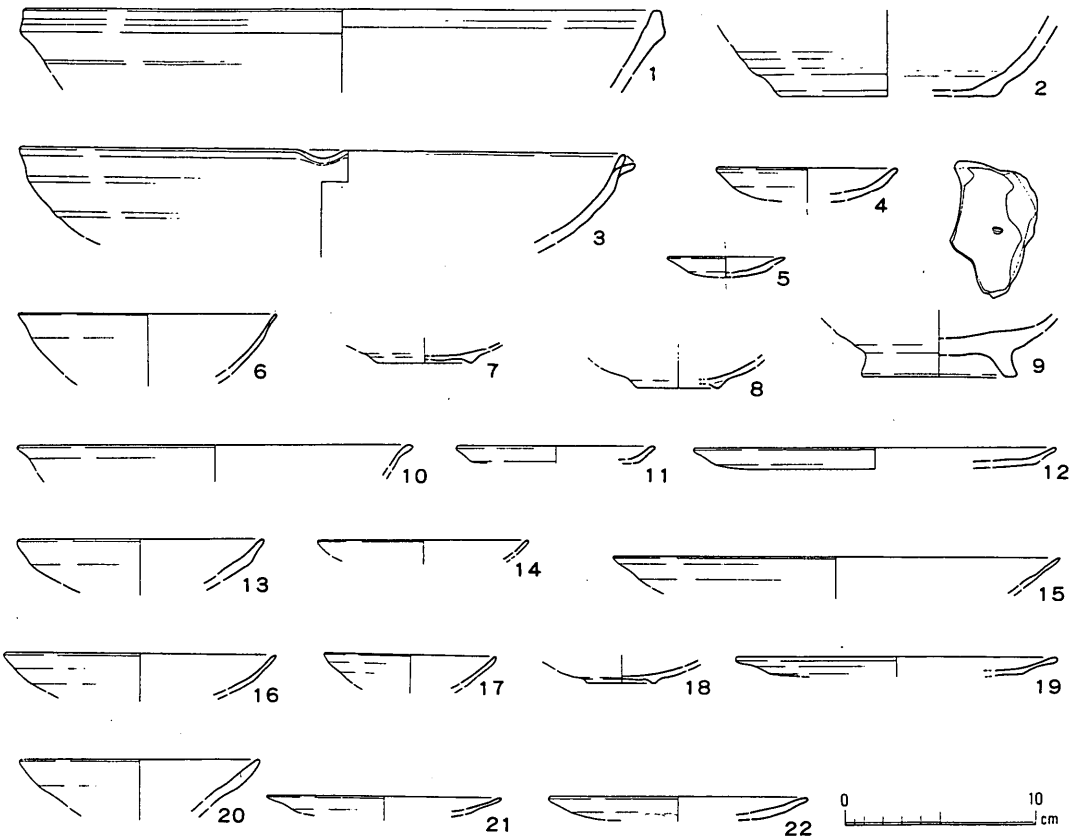
申請地は宅地造成のため約0.8～1m程の盛土がおこなわれており、盛土以下の基本的層序は次のとおりである。

第1層　灰黄色粘土層　約0.2～0.3m

第2層　灰色シルト層　約0.4m

第3層　黄褐粘土層（地山）

第1・2層より、土師器・瓦器・須恵器等の破片やナイフ形石器、石鏃、サヌカイトの剝片が検出されたが、遺構は検出されなかった。



第17図　自然田遺跡　試掘調査区出土遺物

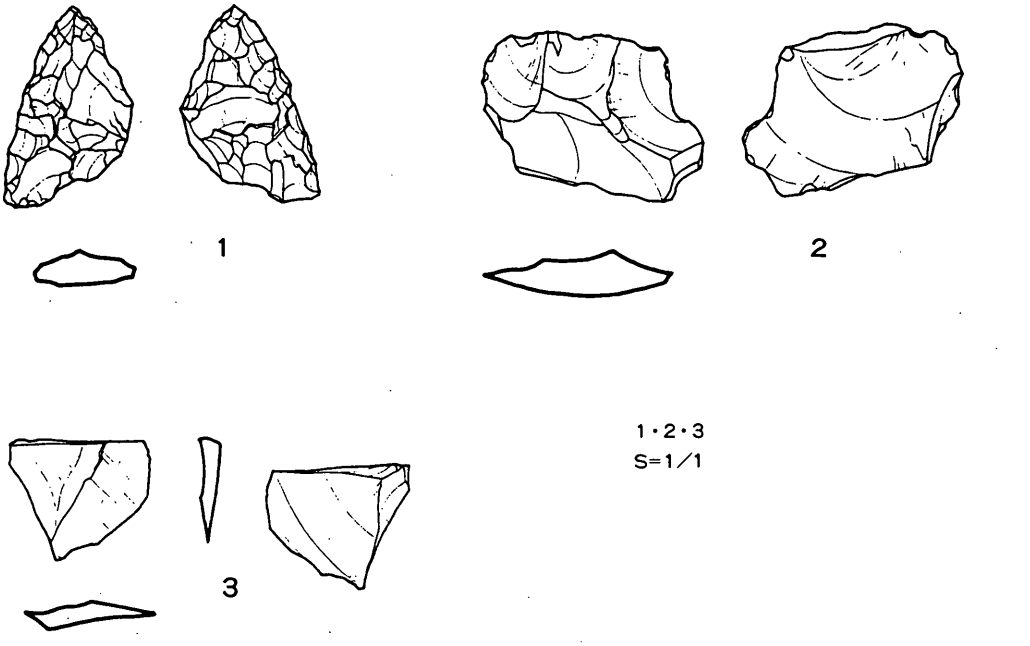
3. 遺　物（第１７・１８図）

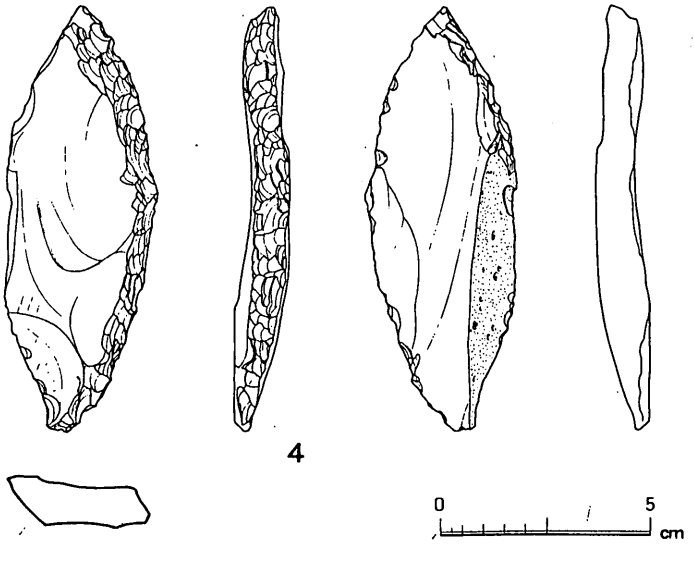
― 土器 ―（遺物観察表１・２）

１・２は須恵質の鉢で、内外面にヨコナデ調整が施され、２の外面には指圧痕が若干みられる。９は須恵質の椀の高台部で、内面にもみ圧痕がみられる。高台は貼り付けによる。３は瓦質の片口鉢である。４・６～８は瓦器椀で、５・11・12は瓦器皿である。10は青磁の碗で、内外面に貫入がみられる。13～18・20は土師器の椀で、19・21・22は土師器の皿である。

― 石器 ―

自然田遺跡において発掘された石器はすべてサヌカイト製である。１は縄文時代の凹基無茎式石鏃で、基部は一部欠損し、長さ2.6㎝、幅1.75㎝、厚さ0.5㎝をはかる。２は横長剝片である。背面は５つの剝離面からなり、縦





第18図　自然田遺跡　試掘調査区出土石器

2.3㎝、横2.95㎝、厚さ0.6㎝をはかる。3は横長剝片であり、縦1.6㎝、横1.9㎝、厚さ0.4㎝をはかる。2・3は風化の状態などからみて、旧石器と思われる。4は後期旧石器時代の第Ⅱ段階のものと思われるナイフ型石器であり、比較的大型の横長剝片を素材としている。背面には腹面からの調整剝離がみられ、腹面側の刃部は自然面を用いている。縦3.6㎝、横10.2㎝、厚さ1.3㎝をはかる。

4. 小　結

今回の試掘調査では、遺構は検出されなかったが、遺物包含層の存在が確認でき、石器、各種土器片が出土したことの意義は大きいものといえよう。この試掘調査の結果により、自然田遺跡が新たに周知の埋蔵文化財包蔵地として、とらえられることになった。

さらに、包含層より出土した大型のナイフ型石器は、先述したように後期旧石器時代第二段階に属するものと考えられる。これまで阪南町で最古の遺物としてとらえられていた蓮池出土の有舌先頭器が後期旧石器時代第三段階のものであるので、このナイフ型石器は、阪南町の歴史を約２千～１万年遡らせるものであろう。このナイフ型石器の他にも、旧石器時代に属すると考えられる剝片も検出されており、少なくともこれまで考えられていた時期よりも以前には、人々の生活跡が存在していたようである。

また、石鏃も１点検出されているが、縄文土器は１点も出土していない。隣接の玉田山遺跡からも縄文時代のものと考えられている石鏃が検出されているが、土器は出土していない。これはどういう理由によるものであろうか。今後調査が進めば土器も検出される可能性は十分にあるので、今後の調査に期待したい。

８６－１区

1. 位　置（第１６・１９図）

本調査は、個人住宅建設に先立つ事前調査である。調査区は、先述した確認調査によって発見された自然田遺跡の南西端に位置し、丘陵の先端の比較的平坦な部分にあたる。

申請地内に１ｍ×２５ｍ、２ｍ×２ｍ、1.５ｍ×８ｍ、１ｍ×2.５ｍの計４ケ所のトレンチを設定し、人力で掘削を行なった。

2. 層　序（第２０図）

基本的な層序は、上層より第１層耕作土、第２層褐色微砂土、第３層灰色微砂土、第４層灰褐色微砂土、第５層黄褐色粘土（地山）であった。第３・４層

より瓦器片等が出土した。

3. 遺　構（第２０図）

第３トレンチ（1.5ｍ×８ｍ）で溝（ＳＤ－０２）と自然流路各一本を検出し、第４トレンチ（１ｍ×2.5ｍ）でその溝の続きを検出した。また第１トレンチで溝を検出した。

ＳＤ－０１

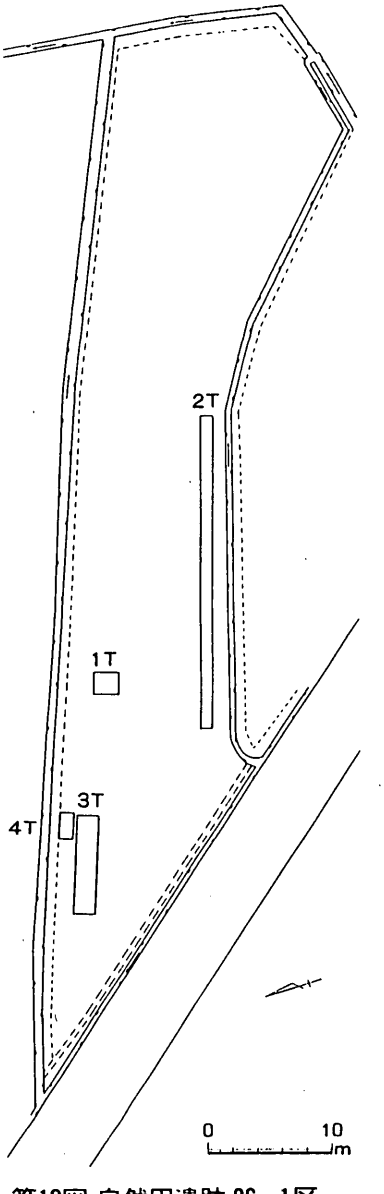
第１トレンチで検出した幅約0.5ｍ、深さ約0.１５ｍの溝である。埋土は、灰褐色微砂土、灰色シルトである。遺物は検出されなかった。南西から北東方向に流れるものと思われる。

ＳＤ－０２

第３・４トレンチで検出され、幅0.６～0.８ｍ、遺構確認面（地山上）よりの深さ約0.２ｍを呈する。埋土は、灰褐色微砂土、茶灰色微砂土、茶灰色砂層で、第４層より掘り込まれている。埋土中より中世期のものと思われる土師質土器片を数点検出した。

流　　路

第３トレンチ西端で検出され、幅1.５ｍ以上、遺構確認面よりの深さ約0.５ｍを呈する。埋土中からＳＤ－０２で検出された土師質土器片と同様の土器片が数点出土した。



第19図 自然田遺跡 86－1区 トレンチ位置図

4. 遺　物

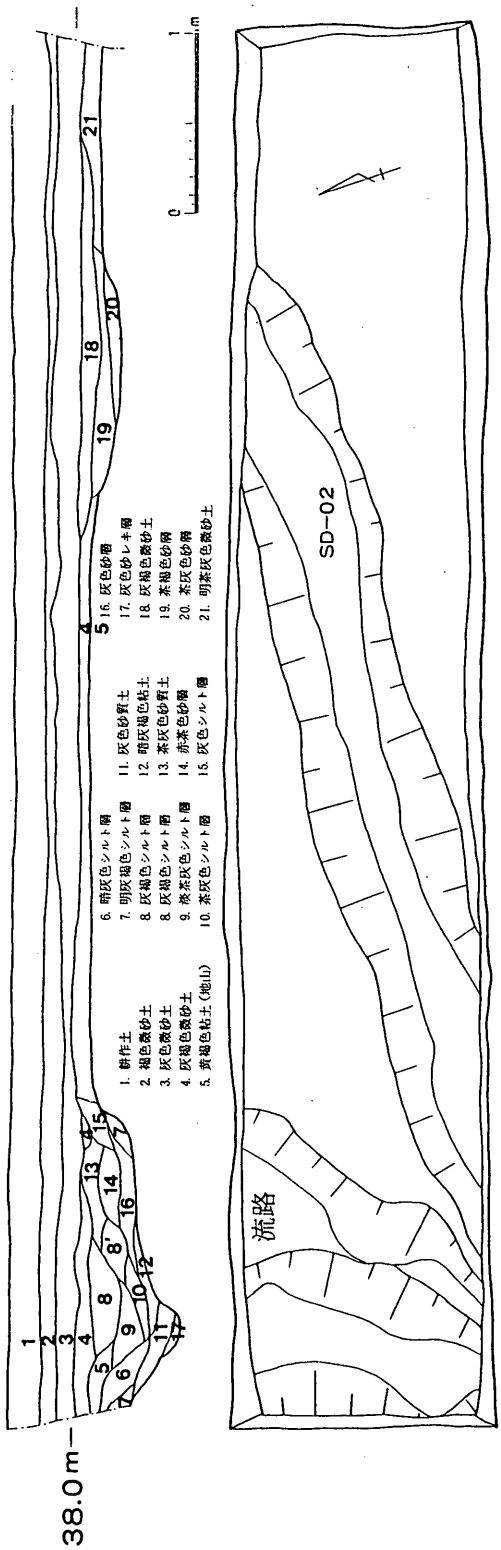
実測可能な遺物は検出されなかったが、第１～４トレンチのすべてから、土師器、土師質土器、須恵器、陶磁器の破片が検出された。

ＳＤ－０２・流路で検出された土師質土器は、胎土に0.５～１㎜大の砂粒子を多く含んでおり、焼成もよくない。以前に実施された神光寺（蓮池）遺跡の

調査でも、同様の土器が検出されている。

5. 小　結

自然田遺跡は、先の試掘調査により新規に指定された遺跡である。先の調査では、旧石器時代から中近世に至る遺物を検出したが、遺構の存在は確認できなかった。今回の調査で、中世期のものと思われる溝や流路を検出したことは、付近一帯に生活圏が存在していたことの根拠となろう。このような意味において、今回の調査は意義が大きかったといえよう。

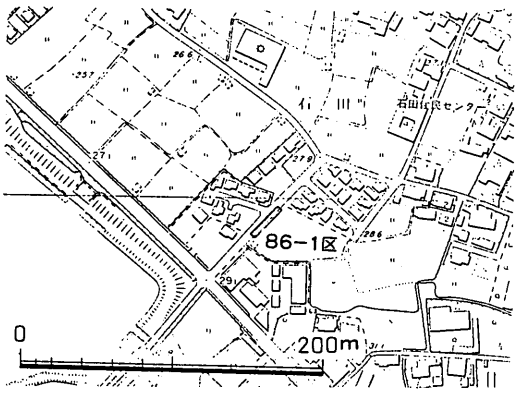


第20図　自然田遺跡 86－1区 断面図・平面図

3節　神光寺（蓮池）遺跡

86－1区

1.　位置および調査の概要（第12・23図）



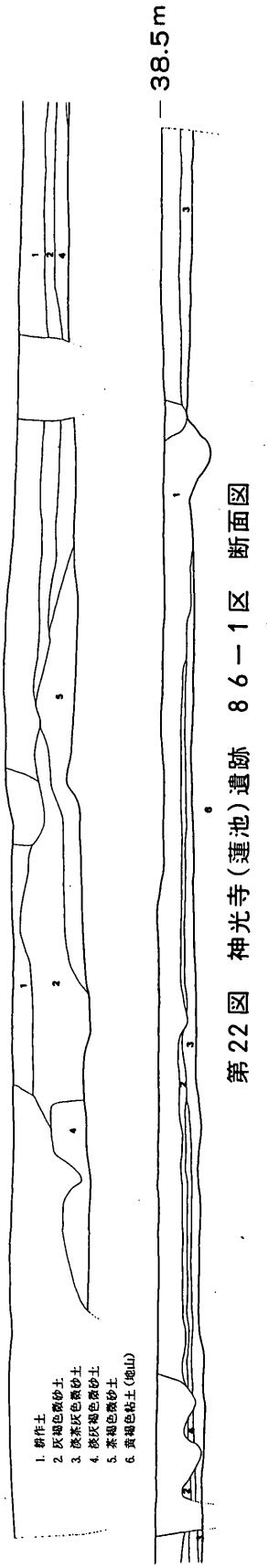
第21図　神光寺遺跡　調査区位置図

本調査区は、河川（排水路）改修に先立つ事前調査である。神光寺（蓮池）遺跡の西部に位置し、昭和55（1980）年に発掘調査が行なわれた地区に隣接している。その調査では、弥生時代中期の方形周溝墓や土坑等が検出されている。

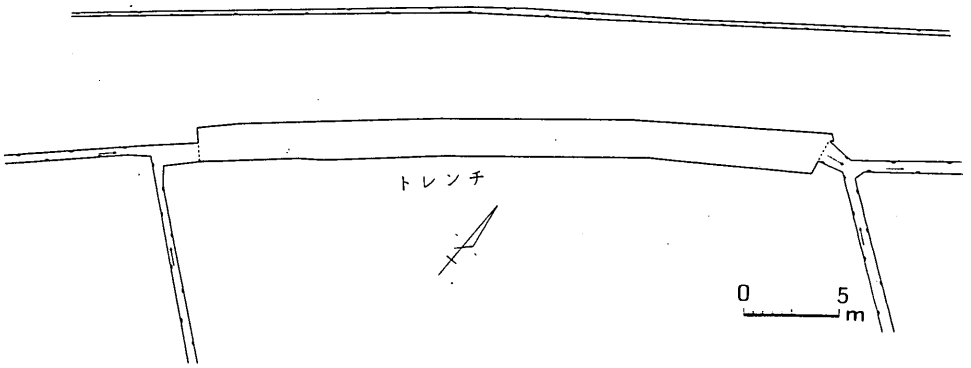
工事により掘削される約2m×約33mを調査区として設定したが、以前にかなり攪乱をうけており、遺構も検出されなかった。

2.　層　序（第22図）

基本的な層序は、上層より第1層耕作土、第2層灰褐色微砂土、第3層淡茶灰色微砂土、第4層淡灰褐色微砂土、第5層茶褐色微砂土、第6層黄褐色粘土（地山）であった。第2～5層より瓦、瓦器、土師器、須恵器等の破片が検出された。



第22図　神光寺（蓮池）遺跡　86－1区　断面図

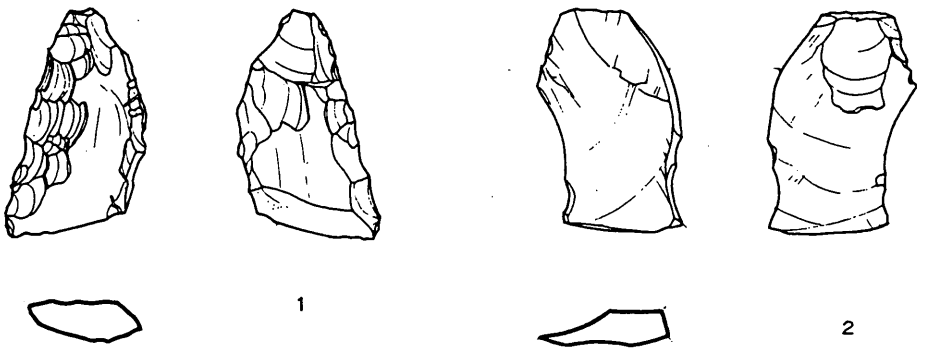


第23図　神光寺(蓮池)遺跡　８６－１区　トレンチ位置図

3. 遺　物

― 石器 ―（第２４図）

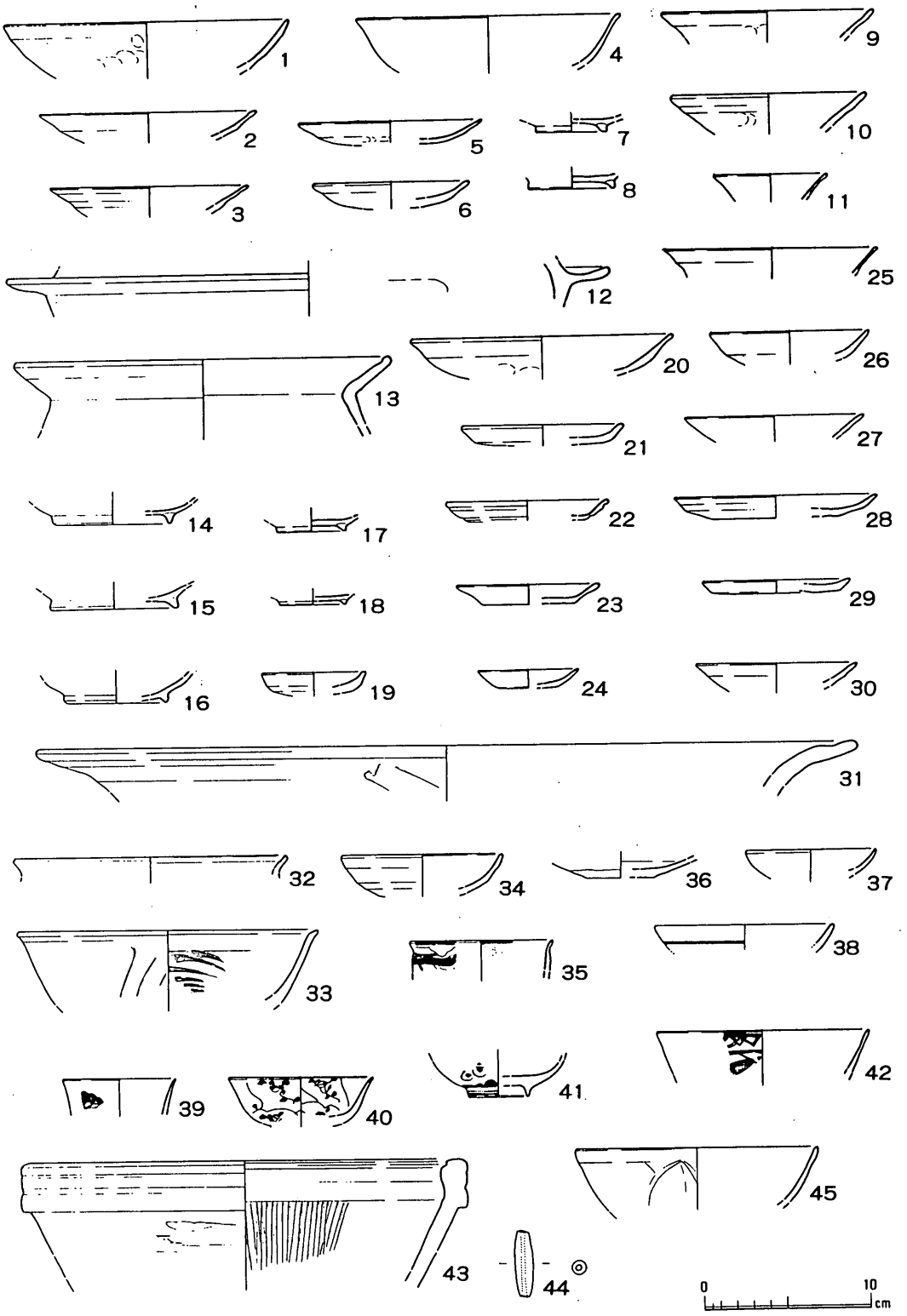
１はサヌカイト製で、弥生時代の石鏃と思われるが、先端部及び基部が欠損しているため形態はわからない。長さ3.0㎝、幅1.8㎝、厚さ0.55㎝をはかる。２もサヌカイト製の縦長剝片で、腹面には明瞭な打瘤裂痕を有する。縦2.9㎝、横1.95㎝、厚さ0.5㎝をはかる。



第24図　神光寺(蓮池)遺跡　８６－１区　出土石器　(S=1／1)

― 土器 ―（第２５図・遺物観察表２・３）

１～４・７～１０は瓦器椀である。７・８の高台部は貼りつけによる。５・６は瓦器皿である。１１は須恵器片である。１２・１３は土師質の羽釜・壺である。１４～１８・２０・２５～２７・３０は土師器の椀であり、２１～２４・２８・２９は同じく皿である。３１は須恵器の甕の口縁部と思われ、内外面にヨコナデ・調整痕が明瞭に残る。３２・３４は磁器の碗である。３３は磁器の鉢で外面に貫入と蓮弁の退化したと思われる文様がみられる。



第25図　神光寺(蓮池)遺跡　86－1区　出土遺物　(S=1/4)

３５は萩焼の椀である。３６は美濃焼の陶器で、底部外面は無釉である。３７・３８は伊万里の小碗で、３７の内面には上絵付の痕跡がみられる。３８の外面には界線が一本巡っている。３９は施釉陶器で、貫入が内外面にみられる。外面に染付が施されている。４０は伊万里の小碗で、内外面に草花文の染付が施されている。４１は伊万里の碗で、高台畳(たたみ)付の部分は釉がふきとられている。４２も伊万里の碗である。二次焼成をうけている可能性がある。４３は備前の擂鉢で、７本単位の擂り目が施されている。４４は土師質の管状土錘で完形品である。４５は青磁碗で、外面に比較的しっかりした蓮弁がみられる。搬入品であろう。

（註１）『田山遺跡』　（財）大阪文化財センター　１９８３年
（註２）『田山遺跡・神光寺遺跡発掘調査概要』　阪南町教育委員会　１９８６年
（註３）『神光寺跡発掘調査報告書』　阪南町教育委員会　１９８２年

4章　ま　と　め

以上、昭和６１年度の成果を報告した。田山遺跡４件、自然田遺跡２件、神光寺（蓮池）遺跡１件の報告のうち、遺構が検出されたのは、わずかに３件のみであったが、自然田遺跡・神光寺（蓮池）遺跡で石器が検出された他、各遺跡から古墳時代～近世期の土器が出土した。

とりわけ、自然田遺跡が新たに周知され、旧石器時代のものと思われるナイフ形石器が検出されたことの意義は大きいといえよう。この石器が北側に隣接し、縄文時代の石器が検出されている玉田山遺跡から流れ込んできたものとも考えられ、自然田遺跡が旧石器時代以降の遺跡であると断言できないが、先述したように、これまで阪南町内では、神光寺（蓮池）遺跡の有舌尖頭器が旧石器時代唯一の遺物であったので、このナイフが阪南町における旧石器時代の遺跡の存在を裏づける資料になったといえよう。

また、田山遺跡では８６－５区で、遺跡の最東部を調査し、遺物包含層を検出したことにより、遺跡の範囲がさらに東方に拡がる可能性がでてきた。今後周辺での分布調査、試掘調査が期待されよう。

以上のように、今年度の調査は比較的小規模な開発に伴う調査であったにもかかわらず、かなりの成果をおさめることができた。先述したように、阪南町域では関西新空港の建設に伴い様々な開発が予想される。今後埋蔵文化財の保存・保護等の対策を施す必要があろう。

遺　物　観　察　表 (1)

挿図番号 図版番号	遺跡名 地　区	出土地点	器　種	法量 (cm) 口　径	器　高	高台径	焼成	胎　土	色調 (内　面)	備　考
第6図－1 図版－6	田山遺跡 86－1区	第3トレンチ	須恵器 蓋	－	(1.2)	－	良好	密	淡灰色 (灰色)	つまみのみ残存
－2	〃	第5トレンチ	須恵器 蓋	(13.8)	(2.1)	－	〃	〃	淡灰色	－
－3 図版－6	〃	第3トレンチ	須恵器	(8.8)	(1.5)	－	〃	〃	黄灰色	－
－4	〃	第5トレンチ	須恵器 長頸壺	(10.2)	(0.8)	－	〃	〃	灰色 (淡灰色)	－
－5 図版－6	〃	第3トレンチ	須恵器 鉢	(26.0)	(3.75)	－	〃	〃	灰白色 (灰色)	口縁部外面自然釉
－6 図版－6	〃	〃	須恵器	－	(1.3)	(10.0)	〃	〃	黄灰色 (淡黄灰色)	－
－7 図版－6	〃	第1トレンチ	〃	－	(0.95)	(8.6)	〃	〃	淡黄灰色	－
－8 図版－6	〃	〃	土師質 壺	(10.3)	(2.2)	－	〃	非常に粗い	明黄灰色	－
－9 図版－6	〃	第4トレンチ	瓦器 椀	(14.5)	(1.8)	－	〃	密	黒色	－
－10	〃	第5トレンチ	〃	(18.3)	(1.65)	－	〃	〃	暗黄灰色	－
－11	〃	第4トレンチ	土師質 土錘	直径 (1.1)	残存長 (1.8)	－	〃	〃	赤褐色	½残
－12 図版－6	〃	第2トレンチ	瓦器 椀	－	(1.3)	(5.7)	〃	〃	暗黄灰色	－
第9図－1 図版－6	田山遺跡 86－2区		土師器 椀	(12.2)	(2.35)	－	〃	〃	淡黄茶灰色	－
－2 図版－6	〃		瓦器 小皿	(7.2)	(1.6)	－	〃	密(1㎜大の砂粒子を含む)	明灰茶色 (暗灰色)	－
第12図－1	田山遺跡 86－4区	第1トレンチ	瓦器 椀	(12.4)	(1.2)	－	〃	〃	黒灰色 (暗黒灰色)	－
－2	〃	〃	瓦器 皿	(16.0)	(1.2)	－	〃	〃	黄灰褐色 (黄灰色)	－
－3 図版－6	〃	〃	土師器 皿	(14.6)	(1.4)	－	〃	密(微砂粒子を含む)	暗茶灰色 (淡黄茶灰色)	－
－4	〃	第3トレンチ	土師質	－	(0.9)	(4.5)	〃	密	淡黄灰褐色	－
－5 図版－6	〃	第1トレンチ	須恵器 坏	－	(1.1)	(11.2)	〃	〃	淡明灰色 (暗灰色)	高台高 0.5㎝
第15図－1 図版－6	田山遺跡 86－5区	暗灰色 微砂土	須恵器 坏	－	(0.9)	－	〃	〃	白灰色 (淡青灰色)	－
－2 図版－6	〃	土坑1	土師器 椀	－	(2.6)	(6.4)	〃	〃	淡茶白色 (乳茶褐色)	高台高 1.9㎝
第17図－1 図版－7	自然田遺跡	灰黄色粘土	須恵質 鉢	(33.6)	(3.35)	－	〃	〃	黄灰色 口縁部外面暗黄灰色	－
－2	〃	〃	〃	－	(3.2)	底径 (11.2)	〃	〃	黄灰色	－
－3 図版－7	〃	〃	瓦質 鉢	(32)	(4.7)	－	〃	〃	暗黄灰色 (暗灰色)	－
－4 図版－7	〃	〃	瓦器 椀	(9.4)	(1.7)	－	〃	〃	黒灰色 (一部黄灰色)	－
－5	〃	灰黄色土	瓦器 皿	(6.4)	(1.1)	－	〃	〃	暗灰色 (黒灰色)	－
－6	〃	灰黄色粘土	瓦器 椀	(13.6)	(3.2)	－	〃	〃	淡灰色 (灰色)	－
－7 図版－7	〃	〃	〃	－	(0.75)	(2.5)	〃	〃	黒灰黄色 (淡灰色)	－
－8	〃	〃	〃	－	(1.5)	(4.4)	〃	〃	明黄褐色 一部暗灰色	高台高 (0.4㎝)
－9 図版－7	〃	〃	須恵質 椀	－	(2.7)	(8.0)	〃	やや粗	淡乳黄茶色 外面一部乳黄茶色	内面にもみ痕
－10	〃	灰黄色土	青磁 碗	(21.0)	(1.4)	－	〃	密	淡灰緑色	－
－11	〃	〃	瓦器 皿	(10.6)	(0.9)	－	〃	〃	暗灰黄色 (灰黄色)	－
－12 図版－7	〃	灰黄色粘土	〃	(19.2)	(1.1)	－	〃	〃	淡灰色 一部黒灰色 (おもに黒灰色と黄灰色)	－

遺　物　観　察　表　(2)

挿図番号 図版番号	遺跡名 地　区	出土地点	器　種	法　量 (cm) 口　径	器　高	高台径	焼成	胎　土	色　調 (内　面)	備　考
第17図－13 図版－7	自然田遺跡	灰黄色粘土	土師器 椀	(12.2)	(2.2)	－	良好	密	乳黄色 (黄土色)	－
－14	〃	〃	〃	(11.4)	(0.8)	－	〃	〃	淡乳黄色 (淡乳茶色)	－
－15	〃	〃	〃	(23.6)	(1.6)	－	〃	〃	乳茶色 (茶色)	－
－16	〃	〃	〃	(14.4)	(1.8)	－	〃	〃	淡乳赤茶色 (黄茶色)	－
－17	〃	〃	〃	(9.0)	(1.6)	－	〃	〃	淡灰色 (乳灰色)	－
－18	〃	灰黄色土	〃	－	(0.9)	(3.7)	〃	〃	黄茶灰色 (淡黄茶灰色)	－
－19	〃	〃	土師器 皿	(17.0)	(1.0)	－	〃	〃	乳灰色一部灰黄色 (乳灰黄色)	－
－20 図版－7	〃	灰黄色粘土	土師器 椀	(12.8)	(2.5)	－	〃	〃	赤みがかった明茶色 (黄土に近い茶色)	－
－21	〃	〃	土師器 皿	(12.4)	(0.9)	－	〃	〃	淡乳茶色	－
－22 図版－7	〃	〃	〃	(13.8)	(2.5)	－	〃	〃	灰黄色 (明灰色 暗灰色のムラ有)	－
第25図－1	神光寺(蓮池) 遺跡86-1区	表　土	瓦器 椀	(17.4)	(3)	－	〃	密(直径1㎜の砂粒子を含む)	明黒灰色 (暗灰色 黄色のムラ有)	－
－2 図版－7	〃	灰褐色土	〃	(13.2)	(1.5)	－	〃	密	黒褐色 (黒褐色)	－
－3	〃	〃	〃	(12)	(1.5)	－	〃	〃	黒色 (濃灰色)	－
－4	〃	攪乱内	〃	(16.0)	(3.0)	－	〃	〃	茶褐色 (黒色)	－
－5	〃	灰褐色土	瓦器 皿	(11.0)	(1.4)	－	〃	〃	淡黄色＋灰色 (黄味灰色)	－
－6	〃	〃	〃	(8.6)	(1.6)	－	〃	〃	灰色 (黒色)	－
－7 図版－7	〃	〃	瓦器 椀	－	(0.85)	(4.2)	〃	〃	濃褐色 (濃灰色)	－
－8	〃	〃	〃	－	(0.8)	(5.2)	〃	密(直径1㎜前後の砂粒子を少量含む)	濃灰茶色 (濃灰色)	－
－9	〃	攪乱内	〃	(6.5)	(1.5)	－	〃	密	明灰黄色 (暗灰黄色)	－
－10	〃	灰褐色土	〃	(12)	(2.1)	－	〃	密(微砂粒子を含む)	淡灰黄土色 (淡茶灰色)	－
－11	〃	〃	須恵器	(6.8)	(1.3)	－	〃	密	乳褐 (乳茶色)	－
－12 図版－7	〃	〃	土師質 羽釜	－	(2.4)	鍔下径 (32.0)	〃	密(直径1㎜前後の砂粒子を含む)	乳黄茶色 (乳茶色)	－
－13 図版－7	〃	〃	土師質 壺	(23)	(4)	－	〃	非常に粗い(直径1～3㎜の砂粒子を含む)	暗茶灰色 (明茶灰色)	－
－14	〃	〃	土師器 椀	－	(1.25)	(6.4)	〃	密	淡黒褐色 (黄茶色)	－
－15	〃	表　土	〃	－	(1.4)	(7.6)	〃	〃	淡乳茶色 (乳茶色)	－
－16	〃	灰褐色土	〃	－	(1.35)	(6)	〃	〃	乳黄茶色 (黒茶色)	－
－17	〃	〃	〃	－	(0.85)	(4.1)	〃	〃	褐色 (黄茶色)	－
－18	〃	〃	〃	－	(0.6)	(4.2)	やや良	〃	赤茶色 (淡褐色)	－
－19	〃	灰褐色土	土師質 小皿	(7.2)	(1.3)	－	良好	密(精良な粘土を使用)	乳こげ茶色 (こげ茶灰色)	－
－20 図版－7	〃	攪乱内	土師器 椀	(16)	(2.2)	－	〃	密(精良な粘土を使用)	黄灰色 (やや乳灰色)	－
－21	〃	灰褐色土	土師器 皿	(10)	(1.2)	－	〃	密(精良な粘土を使用)	淡黄土色 (浅黄土色)	－
－22	〃	〃	〃	(9.8)	(1.2)	－	〃	良(直径1㎜前後の砂粒子を含む)	淡黄茶色 (淡黄茶色)	－
－23 図版－7	〃	一　括	〃	(8.6)	(1.2)	－	〃	密(直径1㎜前後の砂粒子を少量含む)	乳茶色 (淡乳茶色)	－

遺　物　観　察　表　(3)

挿図番号 図版番号	遺跡名 地区	出土地点	器種	法量 (cm) 口径	器高	高台径	焼成	胎土	色調 (内面)	備考
第25図－24	神光寺(遺池) 遺跡86-1区	灰褐色土	土師器 皿	(6.2)	(1.7)	－	良好	密	淡茶色 (淡褐色)	－
－25	〃	〃	土師質	(12.6)	(1.4)	－	〃	密(直径1㎜前後の砂粒子を少量含む)	乳茶褐色 (暗茶褐色)	－
－26	〃	攪乱内	土師質	(9.6)	(1.7)	－	〃	密(直径0.5㎜前後の砂粒子を含む)	淡乳黄茶色	－
－27	〃	灰褐色土	土師器 椀	(10.8)	(1.2)	－	〃	密(直径1㎜前後の砂粒子を少量含む)	乳赤茶色 (黄茶色)	内面に付着物あり
－28	〃	耕作土	土師器 皿	(12.2)	(1.3)	－	〃	密(直径0.5㎜前後の砂粒子を少量含む)	淡茶褐色 (乳褐色)	－
－29	〃	灰褐色土	〃	(8.8)	(0.85)	－	〃	密	にぶい黄橙	－
－30	〃	攪乱内	土師器 椀	(9.7)	(1.4)	－	〃	〃	乳茶色	－
－31 図版－7	〃	灰褐色土	須恵器 甕	(50)	(2.6)	－	〃	密(黒色粒子を多く含む)	明黄灰色 (暗灰色)	－
－32	〃	〃	磁器 碗	(16.6)	(0.7)	－	〃	密	淡乳灰色 (淡乳灰色)	－
－33	〃	〃	磁器 鉢	(18.2)	(4.5)	－	〃	〃	釉、緑味灰色	－
－34	〃	攪乱内	磁器 碗	(10)	(2.4)	－	〃	〃	淡青灰色 (淡青黄灰色)	－
－35 図版－7	〃	灰褐色土	陶器 椀	(8.6)	(2.0)	－	〃	〃	明茶褐色 釉：黒と白の流しかけ	萩焼
－36	〃	〃	陶器	－	(1.1)	(4.0)	〃	〃	淡灰白色 釉：灰味緑	－
－37	〃	攪乱内	伊万里 碗	(7.8)	(1.6)	－	〃	〃	乳白色 (乳白色)	－
－38	〃	灰褐色土	〃	(11.0)	(1.6)	－	〃	〃	淡青灰色 (乳青灰色)	－
－39	〃	〃	陶器	(7.0)	(1.8)	－	〃	〃	乳茶色 (淡乳茶色)	－
－40	〃	攪乱内	伊万里 碗	(8.8)	(2.75)	－	〃	〃	釉：青味白色	－
－41	〃	〃	〃	－	(2.2)	(3.6)	〃	〃	釉：淡灰白色	－
－42	〃	表土	〃	(12.8)	(2.55)	－	〃	〃	釉：赤味乳色	－
－43	〃	〃	備前 擂鉢	(26.0)	(7.1)	－	〃	密(直径2～4㎜の砂粒子を含む)	暗赤褐色 (明赤褐色)	－
－44 図版－7	〃	攪乱内	土師質 管状土錘	直径 (1.1)	残存長 (4)	－	〃	密(直径1～2㎜の砂粒子を多く含む)	茶褐色	－
－45 図版－7	〃	灰褐色土	青磁 碗	(14.8)	(3.7)	－	〃	密	釉：灰味緑色	－

第1トレンチ全景・遺構（北東から）

第2トレンチ全景・遺構（東から）

図版2　田山遺跡86－2区

全景（西から）

田山遺跡86－4区

第1トレンチ（南から）

図版3　田山遺跡86－5区

全景（西から）

遺構（ＳＫ－０１）

第3トレンチ全景・遺構（西から）

遺構（SD－02・南から）

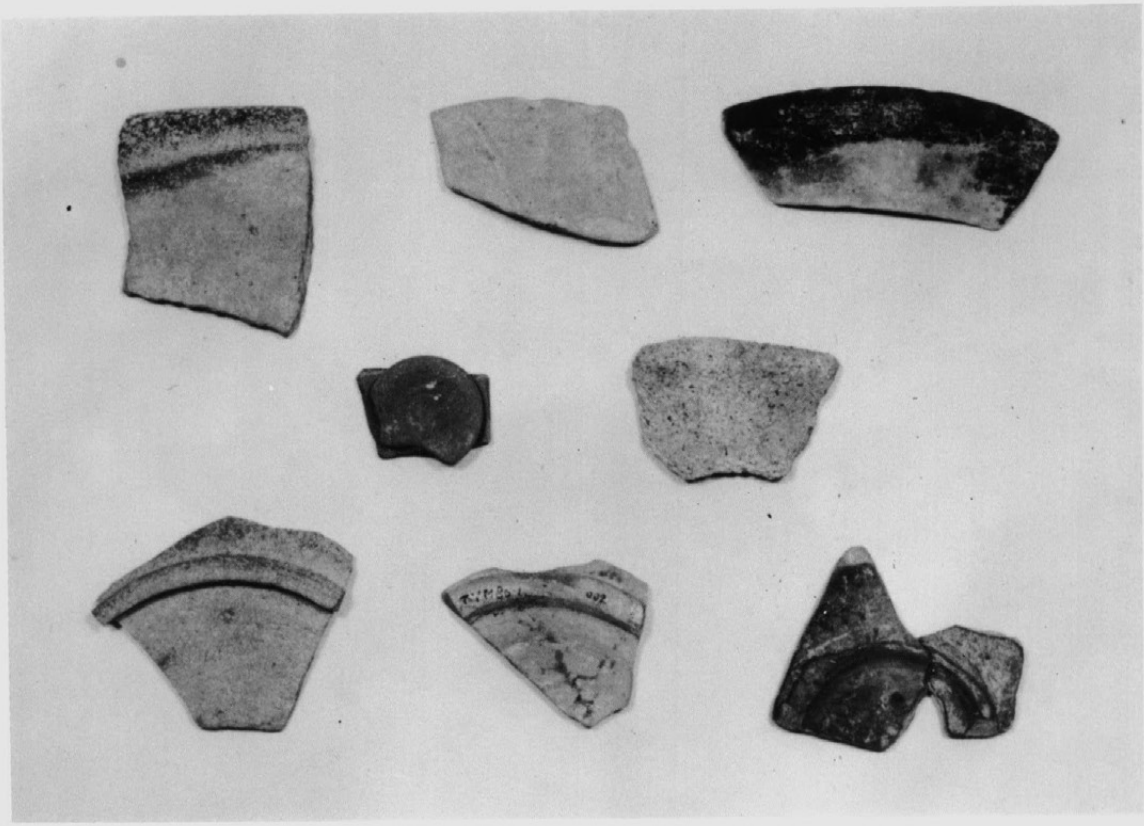
図版5

自然田86－1区

第2トレンチ全景（東から）

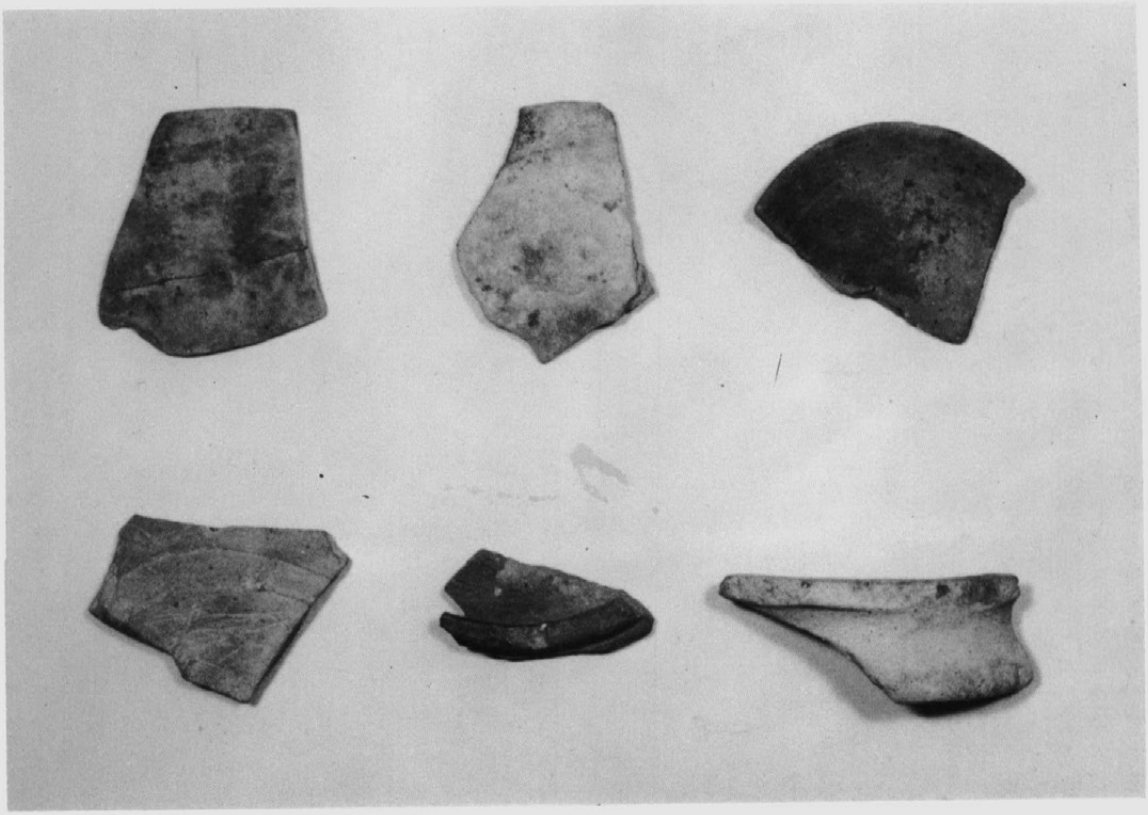
神光寺86－1区

全景（北東より）



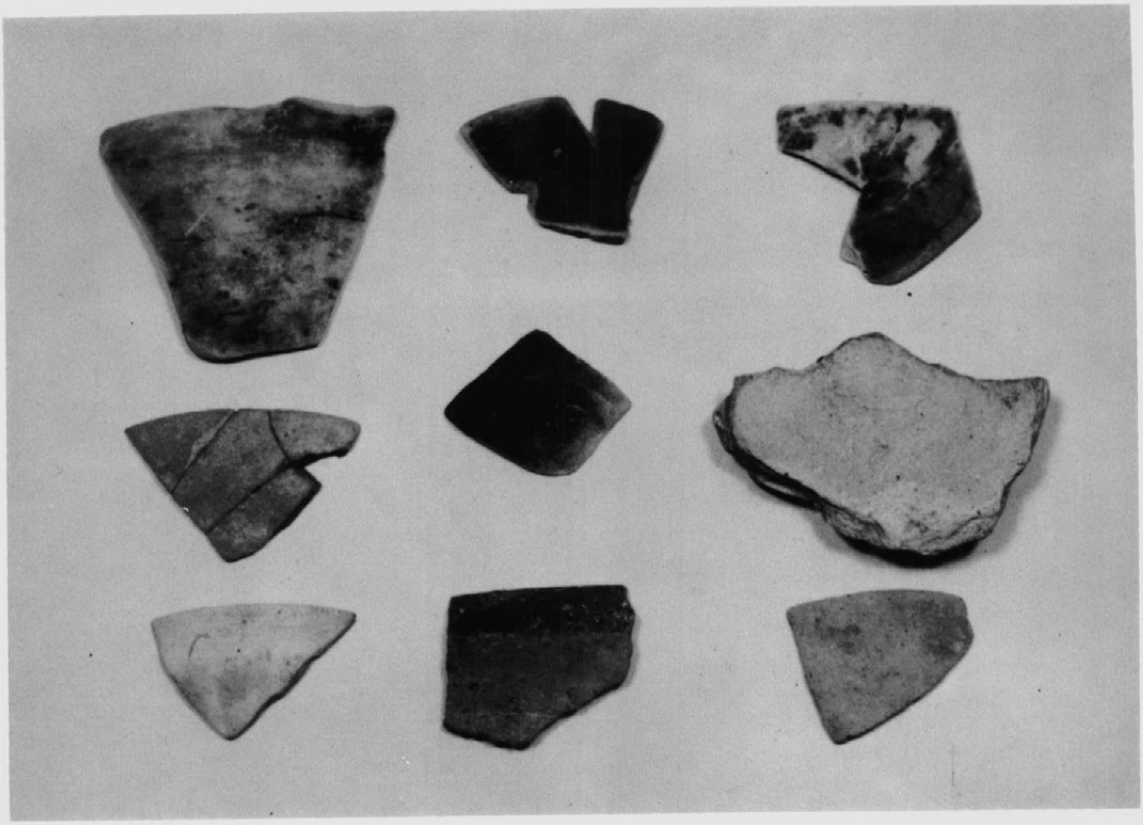
図版6

田山遺跡86－1区出土遺物

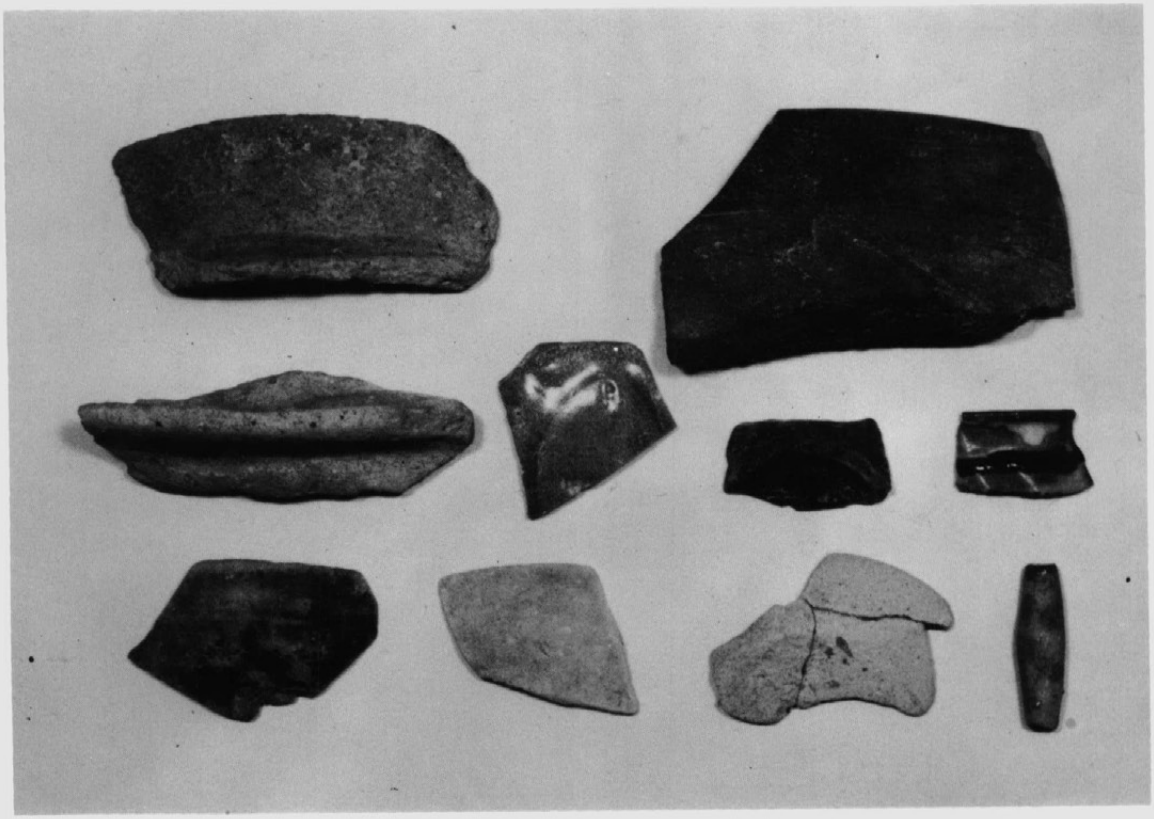


田山遺跡86－2区・86－4区・86－5区出土遺物

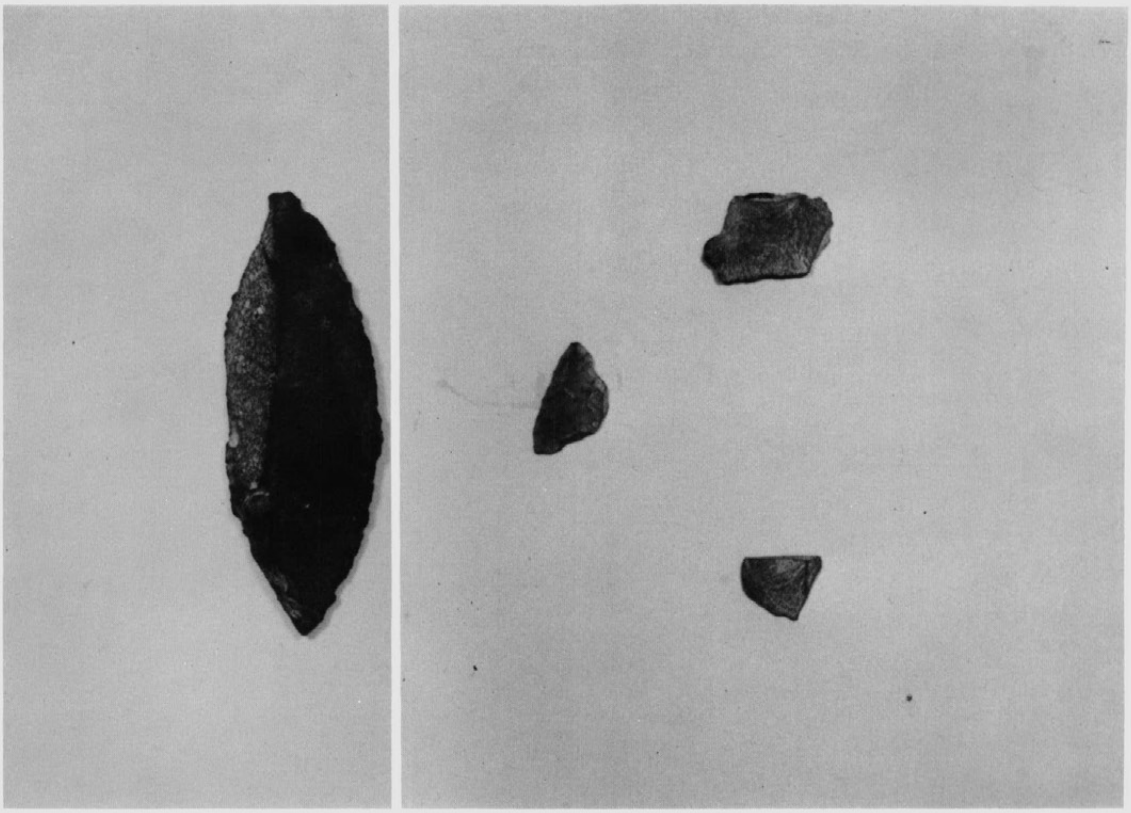
図版7　自然田遺跡試掘調査区出土遺物



神光寺遺跡86－1区出土遺物



図版8　自然田遺跡試掘調査区出土遺物



神光寺遺跡86－1区出土遺物

阪南町埋蔵文化財報告　Ⅳ

阪南町埋蔵文化財発掘調査概要

昭和62年3月31日

発　行：　阪南町教育委員会社会教育課
大阪府泉南郡阪南町尾崎町35の1

印刷者：　石　本　印　刷
和歌山県海草郡野上町動木1475